

日本映画放送株式会社 第60番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成29年11月21日(火) 16時～17時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席: 委員総数 10名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・川本 三郎・
坂井 保之・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
欠席委員(敬称略) : 砂川 浩慶・曾根 和子

放送事業者側出席者: 代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部副部長	小川 英洋
編成制作部	三宅 歩
編成制作部副部長	樋渡 典英
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項 日本映画専門チャンネル『あゝ、荒野』関連の展開について
(2) 報告事項 時代劇専門チャンネル「藤沢周平 新ドラマシリーズ」について

5. 議題(1) 概要

寺山修司唯一の長編小説を、若手実力派俳優・菅田将暉と韓国の名優ヤン・イクチュンのW主演で映像化した新作映画『あゝ、荒野』(監督:岸善幸)は、10月に前後篇の二部作として全国劇場にて公開され好評を得た。日本映画専門チャンネルでは、劇場公開映画に17分の未公開シーンを追加した「あゝ、荒野<完全版>」(全6話)のうち、劇場公開と同じ10月に第1、2話を先行放送し、撮り下ろしインタビューなどを収録したオリジナル番組も併せて放送して映画公開を盛り上げた。また、翌11月には全6話をテレビ一挙全放送した。

【審議ポイント】

- 「あゝ、荒野<完全版>」第1、2話を観賞し、作品をどのように評価するか。
- 10月に先行放送した「日曜邦画劇場」やオリジナルミニ番組、関連編成番組は、劇場興行並びに11月の一挙放送に対する興味をかき立て、盛り上げに貢献したか。
- 通常のウインドウ展開よりも早い、公開とほぼ同タイミングでの作品放送について、どのように考えるか。

6. 議題（1）審議内容

- ・寺山修司にこんな作品があったとは知らず、大変満足した。ヤン・イクチュンは台詞が殆どないのに存在感があつて素晴らしい。公開から放送の流れについては、通常のウインドウは遅く感じられるので、高く評価したい。
- ・寺山作品の雰囲気がよく出ていて素晴らしい映画。ただ二つ疑問がある。一つはなぜ設定を2021年にしたのか。もう一つは韓国人俳優のヤン・イクチュンを起用した理由だ。
- ・原作は1966年の新宿で、映画にはかつての新宿の雰囲気が濃厚に残っており、私は嬉しかった。猥雑で全てが行き詰まっているような60年代の新宿は、映画でなかなか表現できないと思うが、そうした臭いや時代性が出ているこの作品には値打ちがある。
- ・私は10月に1、2話を観て、その後全編を一気に観た。ただ10月に先行放送を観た視聴者が劇場に足を運ぶかという点、それは菅田ファンぐらいではないか。時代設定に関しては2021年といった感じがなく、原作にない震災のエピソードがかみ合っていない。
- ・現代はボクシングが青春や時代を表すものにならない気がする。そして新宿という街も原作の時代と変わってしまった。この映画の場合誰もがバラバラに孤立していて、同じ街に生きている空気が見えない。劇場公開、テレビ放送、配信、DVDと同時進行で、しかもバージョンが異なるとなると、受け手は混乱するのではないだろうか。
- ・〈完全版〉がCS放送ではほぼ同時期に観られるということに驚いた。チャンネルの加入者が増えたのは菅田人気もあるが、作品の力が大きかったと考える。チャンネルとして加入者数が増えるメリットはあったが、興行側の影響についても今後検証してほしい。
- ・今も昔も居場所のない若者はどこにでもいる。ヤン・イクチュンが出色で、関連編成として彼の監督主演作『息もできない』が放送されたのは嬉しかった。また、通常の順番を破ったウインドウ展開には非常に驚かされた。視聴者にはお得感がある。
- ・私も第1・2話を見て、すぐに全話を観た。一気に見せて中毒にさせる。ウインドウ展開に関しては、劇場は興行に影響があると渋るかもしれないが、受け手の立場からすると、観たい映画を見過ごすことも多く、いつでもどこでも見られることは歓迎されるはずだ。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・ヤン・イクチュンのキャスティングは、本作の川村プロデューサーが『息もできない』で彼と知り合ったのが縁で岸監督に提案し、意外なキャスティングが進んだ。ウインドウ展開については、実現までには多くのハードルがあった。地方在住の菅田ファンが配信や放送で東京と同時期に主演最新作を観られたと喜ぶ声もあった。
- ・時代設定の変更については昭和をリアルに描いた場合の美術予算超過を避けるための苦肉の策ではないか。宣伝がSNSに注力した結果、若いファン層にも作品が浸透した。
- ・スカパーの加入データを分析したところ、キーワードに「あゝ、荒野」や「菅田将暉」が多かった。また、web経由の加入が多かったことも、いつもと違う手応えを感じた。今後劇場とテレビをクロス展開することが両チャンネル生き残りのために不可欠な戦略だと考えており、更にこの路線の強化を進めていきたいと考えている。

7. 議題（2）報告事項

【時代劇専門チャンネル「藤沢周平新ドラマシリーズ」第二弾等のマルチユース展開】

「藤沢周平新ドラマシリーズ」第二弾として「小さな橋で」「吹く風は秋」「小ぬか雨」を制作し、以前から制作してきた「三屋清左衛門残日録」シリーズ最新作の「特別篇」も制作して、11月より4ヶ月連続放送を実施している。また、新ドラマシリーズ第二弾3作品は、全国10以上の劇場で午前10時スタートの『グッドモーニング時代劇』として公開が決定した。「三屋清左衛門残日録 特別篇」についても、2018年1月～2月に2週間限定公開が控えている。一方全国TSUTAYAでは、新ドラマシリーズ第一弾「果たし合い」「遅いしあわせ」「冬の日」を12月27日から、「三屋清左衛門残日録」「三屋清左衛門残日録 完結篇」を18年2月21日から先行レンタルを開始し、時代劇専門チャンネルに加入していない藤沢ファンや時代劇ファンにも「藤沢周平新ドラマシリーズ」を普及させていく。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成30年1月16日(火)15時より開催。